

25年度みつわ会、新規入会者4名の皆さんを紹介します。



佐久間 雄二さん

このたびみつわ会東北支部に入会しました「佐久間雄二」です。日新火災在職中はいろいろお世話になりありがとうございました。

今後はみつわ会の一員としてよろしくお願ひします。

<略歴>

- ・ 1948年 東京世田谷区に生まれる
- ・ 1970年 日新火災入社 東北勤務歴：仙台12年・盛岡5年・青森2年
- ・ 2013年 日新火災退社

<なぜ仙台に> 1989年、転勤にて仙台に来た時はっきりとした理由はありませんが終の棲家にと考えて決意。(妻の実家が山形県鶴岡市という隠れた影響も?) 当時はバブルのなごりもあり家を購入できたのは静岡転勤後となった。

<問題点> 小生の冠婚葬祭、友人との懇親等がすべて首都圏にてのため経費も含め負担大

<退職後の生活>

① 4:00起床、21:30就寝 ② 1日30分の体操、10kmウォーキング(5kmを朝夕1回) ③ 週2回図書館通い ④ 月1回市主催老壮大学 ⑤ 読書・庭手入れ(妻の手伝い) なんとなく時間が経過するのが気になる。暇を持て余すという状態にはなっていないが単に時間が経過して何になるやら。



大川 雅隆さん



この度定年退職を機に「みつわ会」に入会させていただきました。88年入社後仙台、山形、米沢、古川、郡山、そして山形と25年にわたり多くの方々と出会い、共に過ごせた事は私の宝物です。そしてまた今回みつわ会の総会で多くの諸先輩の方々にお会いできた事は大きな喜びです。退職後の4月からは妻と二人東北の桜を追いかけ廻り、東京へ孫の顔を見ながら観光したり、待望のウッドデッキを自作したりと今のところは何かと忙しく暮らしております。そして何よりも、みつわ会を通じての今後の交流を楽しみにしておりますので宜しくお願ひいたします。



桑野 健二さん

仙台在住の桑野です。

1975年4月1日 広島出身の私は東京で入社式を終えたその足で、上野発の特急列車で生まれて初めての東北の地へと向かいました。時間の経過とともに回りは暗くなり、一抹の不安を覚えたのを今でも思い出します。あれから38年、まさか仙台で定年後の生活を送るとは……。

現在は妻と二人暮らし、息子二人は東京で働いています。

某スーパーのCMに「人生、後半戦が面白い」というのがありますが、実践・実感したいと思っています。現在はハローワーク訪問の合間をぬい、広島へ、海外へと出かけています。どうぞ、宜しくお願いいたします。

那知上 圭一さん

去る3月31日付けをもちまして日新火災を退職致しました。

お蔭様で長き22年間にわたり今日まで無事に過ごせたことはひとえに皆様方の温かいご厚情とご指導の賜物と心より感謝致しております。

退職しまして、小生の地元故郷である仙台「みつわ会東北支部」に入会できた事は嬉しくまた、会員皆様との交流の場に参加することを楽しみにしています。現在は、いろいろな講習を受講しながら毎日過ごしています。

今度、落ち着きましたらみつわ会の行事に是非出席していきたいと思っていますので、今後とも変わらぬご交誼を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、みつわ会東北支部の益々の発展と会員皆様方のご健勝を祈念しまして、入会の挨拶とさせていただきます。

25年4月退職された4名の皆様、それぞれのスタートをされたようです。これからが長丁場です。暇を作り出して、みつわ会の集まりにも顔出ししては如何がですか、お互い顔を合わせれば何故か、ホッとするものです。(一先輩より)

7月10日幹事会……報告

- ① 総会の収支確定に伴い、以後の年間収支見込（長谷川会計幹事策定）について検討。25年度年会費の納入状況を確認。
- ② 9月26日（確定）山形へのバスツアー（定例・昼食会）を佐藤賢一幹事がプランニング、内容につき検討。
- ③ 8月、9月のスケジュール確認。

年会費未納の皆様へ、納入のお願い。

現在若干名の会員の方が年会費（2千円）未納となっています。再度、郵便振替用紙を送付いたしますので、会費振込頂きますようお願いいたします。

8月～9月の行事

	支部	みちのく損保
8月 9日 (金)	幹事会 16時 コーナー	
9月 5日 (木)		ゴルフコンペ
9月 11日 (水)	幹事会 16時 コーナー	
9月 14日 (土)		麻雀大会
9月 26日 (木)	山形ツアー昼食会 (下記)	
9月 28日 (土)		ジャズ鑑賞会

9月26日 (木) 秋の山形 貸切バスツアー 参加者募集中 !!

出発 9:00 (集合8:45) 仙台駅西口バスプール←16:50着・解散
 行程 山形県立博物館：国宝「縄文の女神」展示館内見物→香味庵まるはち：丸八やたら漬<買物>→昼食会：天童・又右衛門そば→「よってけポポラ」JA直売所<買物>→ニッカウキスキー仙台工場<休憩・見学>。
 参加いただける方は、8月31日までに、幹事：佐藤賢一さんへ連絡ください。
 (参加の連絡は他のみつわ会幹事宛でも可)

<大矢さんの絵>

「デインケンスビュール」の町はロマンチック街道沿いでローテンブルグからちょっと南にあります。この町は第二次世界大戦で一度も破壊されず、中世の木組みの家がそのまま残って童話のような世界です。街を囲む市壁の側より描いたもので、手前の草地には黄色のキンポウゲの花が一面に咲き乱れていました。



「青葉山断想」 白井力さん 1976年 (S51年) 記

マンサクの花が終わり、ためらいがちに梅の花が咲くと、みちのく仙台遅い春もようやく定着し始めたところである。何につけても私の心に甦るのは矢張り青葉山を中心としたわたしの一齣である。第二次大戦が熾烈になった昭和17年の秋、私は学徒動員の一人として、盛岡に入隊、翌18年陸軍予備士官学校生徒として仙台に来ました。現在の東北大学

キャンパスのある川内地区には、当時第二師団司令部を中心として、第七・八師団、各特科連隊がありましたが、青春の日々を毎日小銃を担いでは追回練兵場へ通ったものです。道すがら青葉城二の丸跡、古い桜の木が残っている石垣が苔むしているのを見ると胸の締め付けられる思いに襲われる。八木山の青葉ゴルフ場のある一帯も当時は、合同練兵場でありトーチカ訓練や、塹壕ほりの明け暮れでした。そのような激烈な軍事訓練の余暇に、八木山の吊り橋を渡って現在の八木山動物公園付近にあった野球場まで駆け足で行っては野球試合を行ったことも今となっては懐かしい思い出の一つである。中には東京六大学で鳴らした選手たちも混じっており、学生気分の抜けきれない私達は、しばらくは戦争も忘れて打ち寛いだ気分浸ったものであった。昭和 38 年 4 月、私は仙台支店勤務を命じられ盛岡から着任した。20 年ぶりに再び住むことになった。西公園の桜の木の本一本が私にとって深い感慨をそそるものであった。戦争を隔てて再開し得た山川草木に、戦いに失った数多くの戦友の霊の冥福を祈った。或いは沖縄沖に或いはフィリッピンに戦野において散華して行った友の姿が私の脳裏を去来する。これらの尊い犠牲があればこそ得られた平和と民主主義をもっと大切にしなければなるまい。青葉山に連なる八木山、もっとも当時は何もなく団地造成も緒に就いたばかりで、山肌を蔽う松林も、まだ鬱蒼として杜の都の面目を保持していた。そして三度目、昭和 49 年 7 月に私は東京から着任した。そして、こよなく愛する青葉山を包摂した仙台市に聊かも躊躇うことなく永住を決意して青葉山の一角にささやかな自宅を新築したのである。戦国時代の終期に築城された青葉城は、仙台藩の治府として二百数十年続いた、慶長 6 年（1601 年）正月本丸工事を起こし、その 4 月には伊達政宗自身は、工事中の城に移り自ら督励し翌年完成させた。ささやかな私の城は、規模において比すべくもないが、政宗の気宇と相い通う心をもって、毎朝仙台市の全貌を見下ろしては、私と青葉山との奇しき因縁に驚くとともに、ひそかな満足感に浸っているのである。私の祖父母は、明治維新後の版籍奉還、廃藩置県とともに士族生活に終わりを告げ幾代も住み慣れた仙台市を去って現在の岩手県に移住して僧籍に入った。そして三代目。私は不思議な縁により仙台に帰り住むことになったのである。三度目と三代目、私は単なる偶然ではない、人知では計り知れない運命の複雑さをつくづくと考えさせられた。私は時として青葉ゴルフ場でクラブを芝に打ち付けては軍隊時代の事どもが走馬灯のようによみがえってくる。あの不寝番の夜などに聞こえてくる市電の音を、唯一のシャバの音と聞き、懐かしがったこともつい昨日のようである。その市電も 50 年にわたる輝かしい歴史の幕を閉じて、この 3 月末をもって廃止になったことを思い合わせると懐旧の念またそぞろなるものを感じずる昨今ではある。年年歳歳人同じからず、自然のみは変わることなく私達を迎えてくれるがその自然とても列島都市部の団地造成による山容の変貌は全く驚くばかりで、種々の公害を惹起している。仙台市とてもその例外ではなく杜の都の様相は、年とともに失われつつあることは何としても寂しい限りである。年の推移の早さに驚くと同時に古き良き遺産までが音をたてて崩壊してゆくのをみると寂寥またしきりなるものがある。（当時の白井仙台支店長の東北経済倶楽部への掲載文。星利夫さんが寄稿）